

K7914

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JC997 U.S. PTO

09/837618



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 6月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-170841

出 願 人

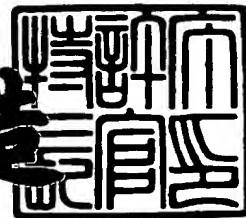
Applicant (s):

株式会社ブリヂストン

2000年12月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3102480

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-9193

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都小平市小川東町 3 - 5 - 5 - 4 0 9

 【氏名】 西田 三博

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都小平市小川東町 3 - 5 - 5 - 8 3 3

 【氏名】 大野 信吾

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都小平市上水本町 3 - 1 6 - 1 5 - 1 0 2

 【氏名】 吉川 雅人

【特許出願人】

 【識別番号】 000005278

 【氏名又は名称】 株式会社ブリヂストン

【代理人】

 【識別番号】 100086911

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 004787

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 反射防止フィルム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 有機フィルムの表面に、下層側からハードコート層と、高屈折率層と、低屈折率層とを設けてなる反射防止フィルムであって、該高屈折率層が金属酸化物微粒子を含んだ合成樹脂系薄膜よりなり、

該金属酸化物が ZrO_2 、 TiO_2 、 NbO 、 ITO 、 ATO 、 SbO_2 、 In_2O_3 、 SnO_2 及び ZnO の 1 種又は 2 種以上であり、

該合成樹脂は紫外線又は電子線硬化型合成樹脂であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 2】 請求項 1 において、該高屈折率層が金属酸化物粒子を 70 重量%以上含むことを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 において、該金属酸化物粒子の大きさが 0.1 μm 以下であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 4】 請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項において、該合成樹脂はアクリル樹脂であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 5】 請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項において、該高屈折率層へ低屈折率層形成用材料の一部が浸透していることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 6】 請求項 5 において、該浸透量が 10 体積%以上であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 7】 請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項において、該高屈折率層の多孔質の前駆層を形成した後、該前駆層の上に液状の低屈折率層形成用材料を塗布し、該低屈折率層形成用材料の一部を該前駆層に浸透させ、その後該低屈折率層形成用材料を硬化させたものであることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 8】 請求項 7 において、該前駆層が溶剤乾燥後、あるいは架橋後に空気層を有する多孔質であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 9】 請求項 8 において、該前駆層の空隙率が 10 体積%以上であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 1 0】 請求項 7 ないし 9 のいずれか 1 項において、該前駆層の屈折率が 1. 6 4 以下であり、高屈折率層の屈折率が 1. 6 4 以上であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 1 1】 請求項 1 ないし 1 0 のいずれか 1 項において、低屈折率層の屈折率が 1. 4 5 ~ 1. 5 1 であることを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 1 2】 請求項 1 ないし 1 1 のいずれか 1 項において、低屈折率層が耐傷性又は低摩擦係数の微粒子を含むことを特徴とする反射防止フィルム。

【請求項 1 3】 請求項 1 2 において、該耐傷性又は低摩擦係数の微粒子がシリカ又はフッ素樹脂よりなることを特徴とする反射防止フィルム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は反射防止フィルムに係り、特に、反射防止特性に優れ、且つ膜同士の密着性が優れた塗工型反射防止フィルムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

OA 機器の PDP (プラズマディスプレイパネル) や液晶板、車輻ないし特殊建築物の窓枠には光の反射を防止して高い光透過性を確保するために反射防止フィルムが適用されている。

【 0 0 0 3 】

従来より用いられている塗工型反射防止フィルムは、1 層、2 層では反射防止性能が低く、4 層やそれ以上の多層にすることで、反射防止性能を良くしているが、構成が複雑となりコストも高くなる。そこで、現在は、3 層膜を用いていることが多い。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

従来の塗工型反射防止フィルムでは、図 2 のように、有機フィルム 4 上にハードコート層 3、高屈折率層 2、低屈折率層 1 を順次に積層してコーティングしていくが、フラットな膜の積層であるため異種の膜同士の密着性を充分に取ること

ができないという問題があった。

【 0 0 0 5 】

また、フラットな膜の積層体は、薬品が積層体間に侵入し易く、界面同士の密着性が悪いため、界面同士で剥離が起きるという問題があった。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

本発明の反射防止フィルムは、有機フィルムの表面に、下層側からハードコート層と、高屈折率層と、低屈折率層とを設けてなる反射防止フィルムであって、該高屈折率層が金属酸化物微粒子を含んだ合成樹脂系薄膜よりなり、該金属酸化物が ZrO_2 、 TiO_2 、 NbO 、ITO、ATO、 SbO_2 、 In_2O_3 、 SnO_2 及び ZnO の 1 種又は 2 種以上であり、該合成樹脂は紫外線又は電子線硬化型合成樹脂であることを特徴とするものである。

【 0 0 0 7 】

この合成樹脂系の薄膜よりなる層は、無機薄膜に比べて著しく安価であり、成膜も容易である。この合成樹脂系の薄膜よりなる低屈折率層は、無機薄膜に比べて屈折率がやや高目となる傾向があるが、その分だけ高屈折率層の屈折率を高くすることにより、十分な反射防止特性を得ることができる。

【 0 0 0 8 】

この合成樹脂としては、紫外線又は電子線硬化型合成樹脂が用いられるが、中でもアクリル樹脂が好適である。合成樹脂に高屈折率を付与するには、上記の高屈折率の微粒子を多く配合すればよい。

【 0 0 0 9 】

各層を形成するには、未硬化の合成樹脂（必要に応じ、高屈折率微粒子、導電性微粒子を含む）を有機フィルム上に塗工し、次いで加熱又は電子線照射等により硬化させるようにすればよい。

【 0 0 1 0 】

特に、高屈折率層と低屈折率層を形成するには、高屈折率層の多孔質の前駆層を形成した後、該前駆層の上に液状の低屈折率層形成用材料を塗布し、該低屈折率層形成用材料の一部を該前駆層に浸透させ、その後該低屈折率層形成用材料を

硬化させることにより両者の密着性を向上させることができる。それによって薬品の侵入による界面同士の剥離も起こりにくくなる。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態】

以下に図面を参照して本発明の反射防止フィルムの実施の形態を詳細に説明する。

【 0 0 1 2 】

図 1 は本発明の反射防止フィルムの実施の形態を示す模式的な断面図である。

【 0 0 1 3 】

図示の如く、本発明の反射防止フィルムは、有機フィルム 4 上に、ハードコート層 3 と、高屈折率層 2 と、低屈折率層 1 とを積層したものであり、高屈折率層 2 に ZrO_2 、 TiO_2 、 NbO 、 ITO 、 ATO 、 SbO_2 、 In_2O_3 、 SnO_2 及び ZnO の 1 種又は 2 種以上の高屈折率の金属酸化物微粒子 5 を配合することにより該高屈折率層 2 に高屈折率を付与する。

【 0 0 1 4 】

本発明において、有機フィルム 4 としては、ポリエステル、ポリエチレンテレフタレート (PET)、ポリブチレンテレフタレート、ポリメチルメタアクリレート (PMMA)、アクリル、ポリカーボネート (PC)、ポリスチレン、トリアセテート、ポリビニルアルコール、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリエチレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体、ポリウレタン、セロファン等、好ましくは PET、PC、PMMA の透明フィルムが挙げられる。

【 0 0 1 5 】

有機フィルム 4 の厚さは得られる反射防止フィルムの用途による要求特性 (例えば、強度、薄膜性) 等によって適宜決定されるが、通常の場合、 $1\mu m \sim 10mm$ の範囲とされる。

【 0 0 1 6 】

各層 1, 2, 3 はいずれも合成樹脂系のものであり、この合成樹脂としては紫外線硬化型又は電子線硬化型の合成樹脂が用いられる。各層 1, 2, 3 は必ずしも同一の合成樹脂である必要はないが、同一の樹脂を用いた場合は密着性が向上

するので好ましい。高屈折率層のバインダー樹脂としてはアクリル樹脂を用いることが好ましい。

【0017】

高屈折率層2に配合する高屈折率の金属酸化物微粒子は、 ZrO_2 、 TiO_2 、 NbO 、 ITO 、 ATO 、 SbO_2 、 In_2O_3 、 SnO_2 及び ZnO の1種又は2種以上である。この微粒子の粒径は $0.1\mu m$ 以下が好ましい。この金属酸化物微粒子は高屈折率層中に70体積%以上含有されることが好ましい。この割合が70体積%未満では高屈折率層の前駆層が多孔質になりにくく、後述するような低屈折率層形成用材料（合成樹脂）の浸透が不十分になる。

【0018】

高屈折率層2には、 ITO 、 ATO 、 Sb_2O_3 、 SbO_2 、 In_2O_3 、 SnO_2 、 ZnO 等の導電性金属酸化物微粒子を配合することが好ましく、特にハードコート層3の表面抵抗を $5 \times 10^{10} \Omega/\square$ 以下とすることにより反射防止フィルムに帯電防止機能を持たせることが好ましい。また、非常に薄い層で金属化合物微粒子を用いるため、帯電防止ハードコートを使用する場合と比べて、使用する無機材料を少なくすることができ、コストダウンにつながる。

【0019】

なお、この高屈折率層2の屈折率を1.64以上とすることにより反射防止フィルムの表面反射率の最小反射率を1.5%以内にする事ができ、1.69以上とすることにより反射防止フィルムの表面反射率の最小反射率を1.0%以内にする事ができる。

【0020】

低屈折率層1には、屈折率低下、耐傷性向上、すべり性向上のためにシリカ、フッ素樹脂等の微粒子を配合することが好ましい。低屈折率層のバインダー（合成樹脂）としてアクリルを用いたときには、コストダウン、膜強度増大、耐薬品性向上を図ることができる。

【0021】

低屈折率層の屈折率は、1.51以下、特に1.45～1.51が好ましい。この低屈折率層1の屈折率が1.51超であると、反射防止フィルムの反射防止

特性が悪くなる。

【 0 0 2 2 】

ハードコート層 3 の厚みは $2 \sim 20 \mu\text{m}$ が好ましく、高屈折率層 2 の厚みは $75 \sim 90 \text{nm}$ が好ましく、低屈折率層 1 の厚みは $85 \sim 110 \text{nm}$ であることが好ましい。ハードコート層のバインダー樹脂としてはアクリル樹脂を用いることが好ましい。

【 0 0 2 3 】

各層 1 ～ 3 を形成するには、前記の通り、未硬化の合成樹脂（必要に応じ上記の微粒子を配合したもの）を塗工し、次いで紫外線又は電子線を照射するのが好ましい。この場合、各層 1 ～ 3 を 1 層ずつ塗工し硬化させてもよいし、3 層を塗工した後、まとめて硬化させてもよい。

【 0 0 2 4 】

特に、高屈折率層 2 及び低屈折率層 1 を形成するには、高屈折率層の多孔質の前駆層を形成した後、該前駆層の上に液状の低屈折率層形成用材料を塗布し、該低屈折率層形成用材料の一部を該前駆層に浸透させ、その後該低屈折率層形成用材料を硬化させるのが好ましい。

【 0 0 2 5 】

このようにすれば高屈折率層と低屈折率層との密着性が高いものとなる。なお、前駆層の空隙率は 10 体積%以上であることが好ましい。空隙率が 10 体積%未満では液状の低屈折率層形成用材料の浸透する量が少なくなり密着性が不十分になる。この高屈折率層の前駆層は多孔質であるため、屈折率は 1.64 以下であるがその上に低屈折率層形成用材料（合成樹脂）が浸透させることにより屈折率が 1.64 以上とりわけ 1.69 以上となるようにするのが好ましい。

【 0 0 2 6 】

塗工の具体的な方法としては、アクリルモノマーをトルエン等の溶媒で溶液化した塗布液をグラビアコートによりコーティングし、その後乾燥し、次いで紫外線又は電子線照射によりキュアする方法が例示される。このウェットコーティング法であれば、高速で均一に且つ安価に成膜できるという利点がある。このコーティング後に例えば紫外線又は電子線を照射してキュアすることにより密着性の

向上、膜の硬度の上昇という効果が奏される。

【 0 0 2 7 】

このような本発明の反射防止フィルムは、O A 機器の P D P や液晶板の前面フィルタ、或いは、車輛や特殊建築物の窓材に適用することで、良好な光透過性と密着性を確保することができる。

【 0 0 2 8 】

【発明の効果】

以上詳述した通り、本発明の反射防止フィルムによれば、反射防止特性に優れ、且つ膜同士の密着性や耐薬品性が著しく向上した塗工型反射防止フィルムが提供される。更に、導電性無機材料を用いることで帯電防止／電磁波シールド性能を付与することも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は本発明の反射防止フィルムの実施の形態を示す模式的な断面図である。

【図 2】

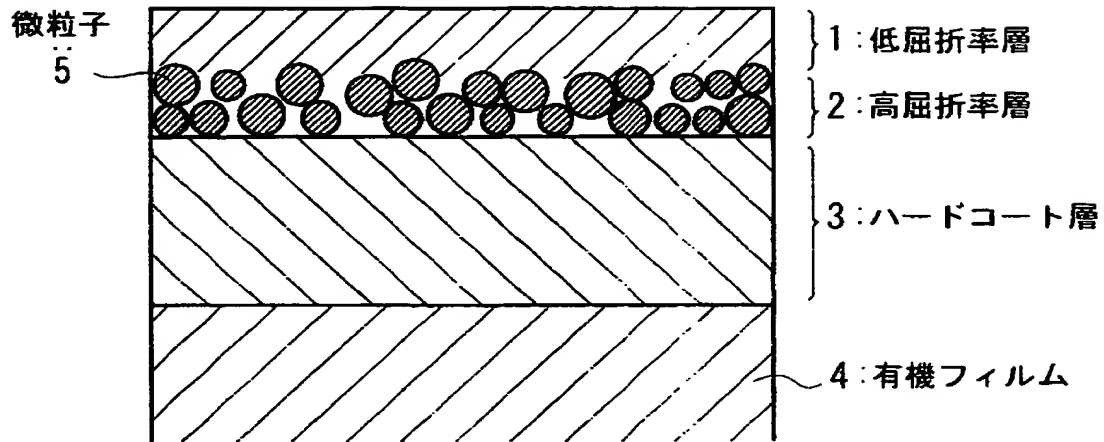
従来例を示す模式的な断面図である。

【符号の説明】

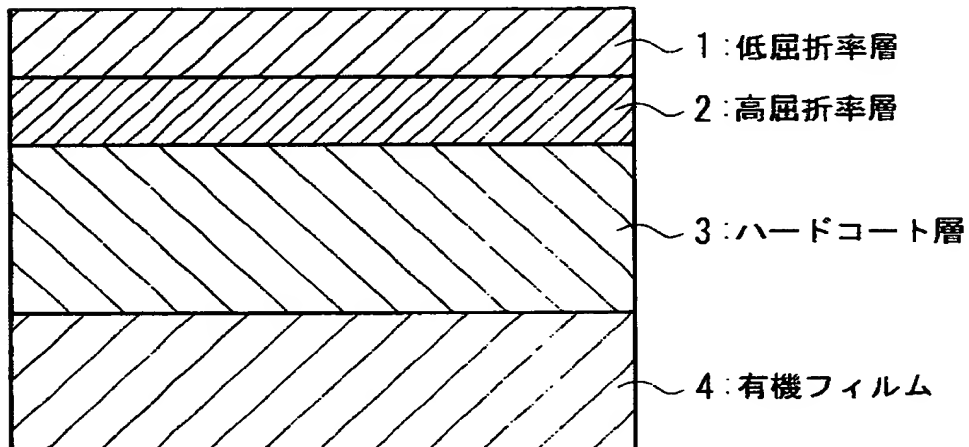
- 1 低屈折率層
- 2 高屈折率層
- 3 ハードコート層
- 4 有機フィルム

【書類名】 図面

【図1】



【図2】



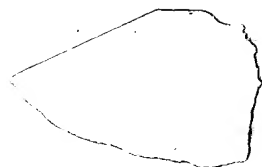
【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 反射防止性に優れ、且つ膜同士の密着性が優れた反射防止フィルムを提供する。

【解決手段】 反射防止フィルムは、有機フィルム4の表面に、ハードコート層3、高屈折率層2及び低屈折率層1を積層したものである。各層1～3はアクリル等の合成樹脂系のものであり、高屈折率層2には高屈折率の金属酸化物微粒子5を配合することにより高屈折率を付与している。高屈折率層2及びハードコート層3を形成するには、高屈折率層の多孔質の前駆層を形成した後、該前駆層の上に液状の低屈折率層形成用材料を塗布し、該低屈折率層形成用材料の一部を該前駆層に浸透させ、その後該低屈折率層形成用材料を硬化させる。

【選択図】 図1



認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-170841
受付番号	50000707470
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成12年 6月 8日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 6月 7日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005278]

1. 変更年月日 1990年 8月27日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区京橋1丁目10番1号
氏 名 株式会社ブリヂストン